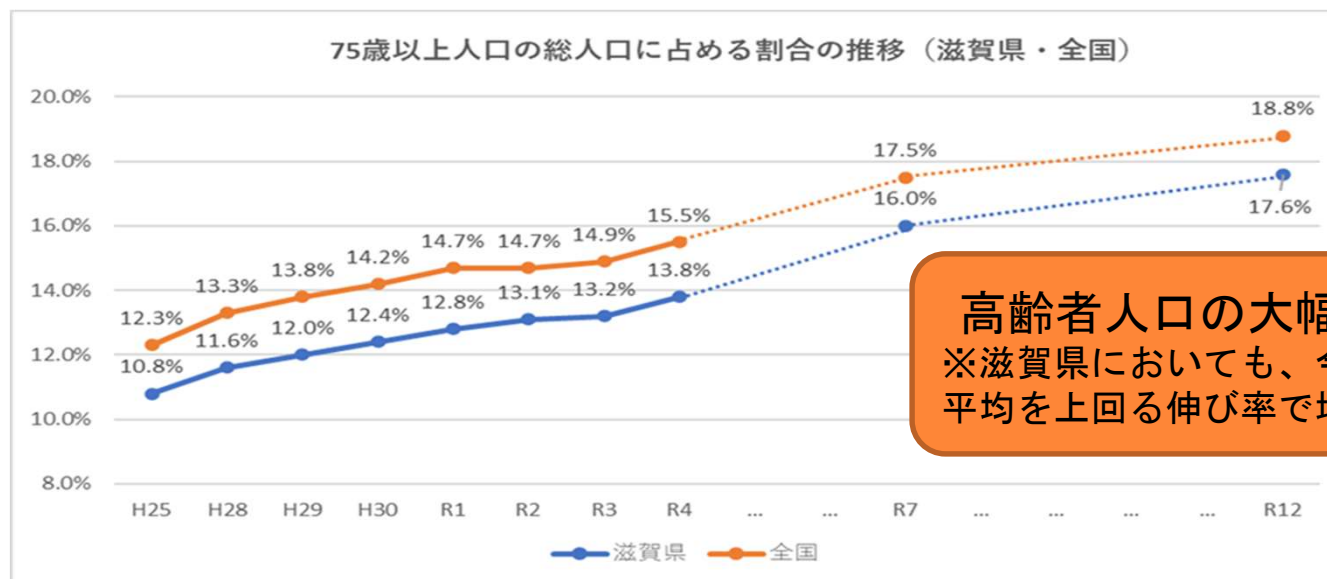


滋賀県後期高齢者医療広域連合
保健事業実施計画(第3次)について

第1 基本的事項・現状の整理

計画策定の趣旨（背景・目的）

- 今後、さらなる高齢者人口の大幅な増加



高齢者人口の大幅な増加
※滋賀県においても、今後、全国平均を上回る伸び率で増加

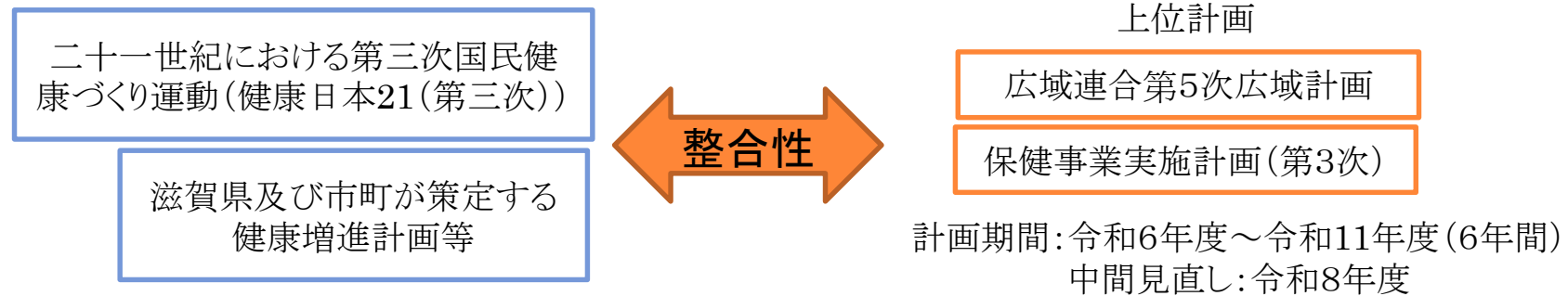
- 疾病構造の変化などの現在の状況



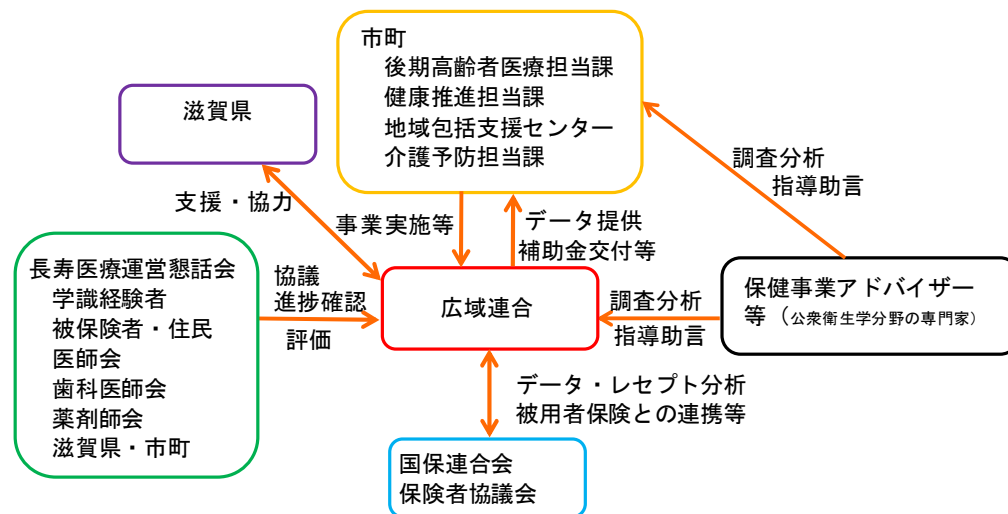
被保険者の特性を踏まえた効果的かつ効率的な保健事業の展開を目指すため、国が策定した「保健事業実施指針」（令和5年改正）を踏まえた本計画を策定します。

計画の位置づけ・計画期間

「第5次広域計画」を上位計画とし、被保険者の健康の増進を図るための基本的事項を示し、推進に必要な方策を明らかにすると同時に、今回の目標項目に関連する法律及び各種計画と整合性を図ります。



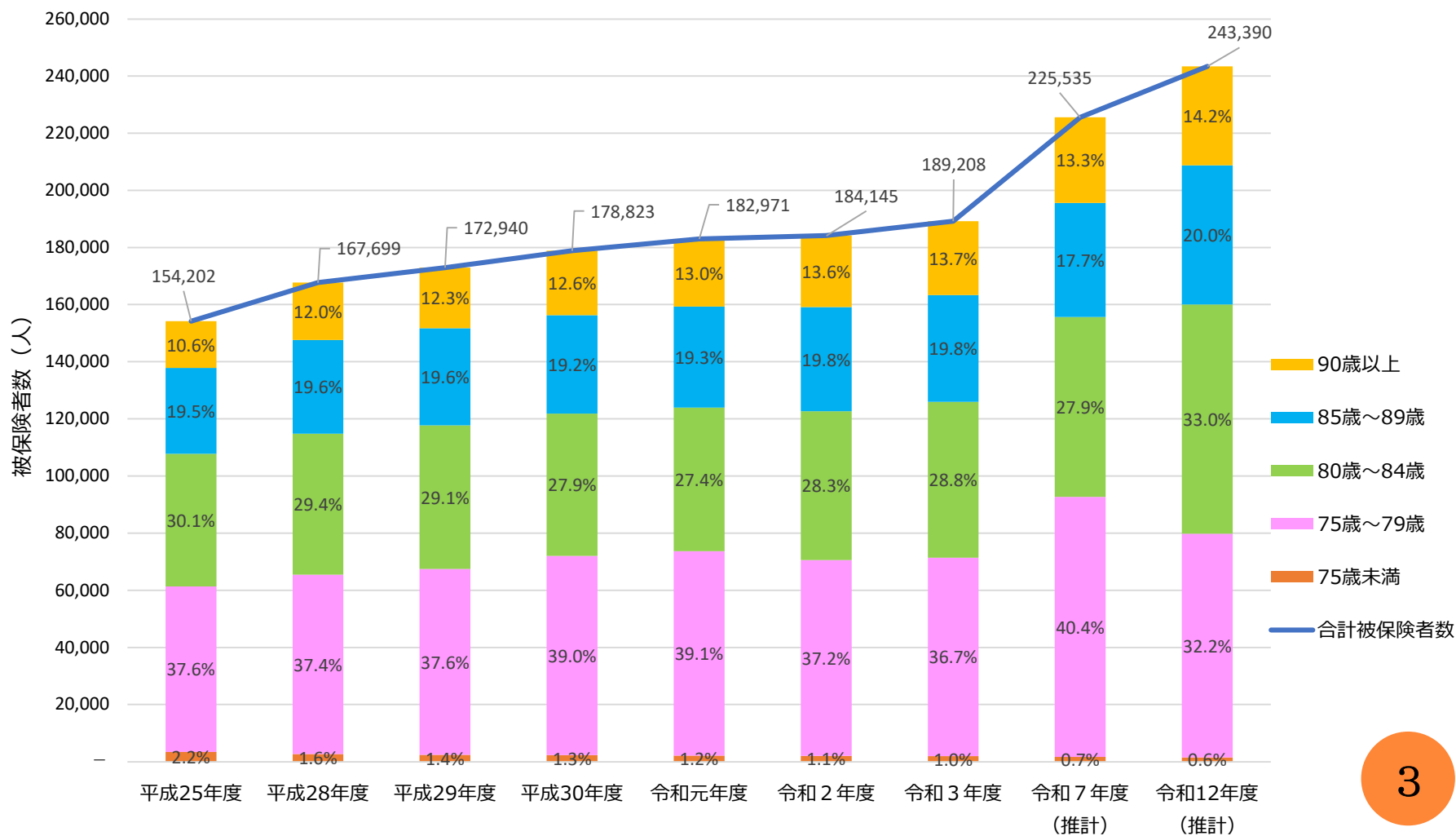
実施体制・関係者連携等



本計画の推進に当たっては、市町、関係機関との連携が不可欠であり、計画の趣旨や内容の周知、連携の強化、協力体制づくりを進めていきます。

滋賀県の後期高齢者等の現状

被保険者の年齢階層別構成比の推移（滋賀県）



第2次保健事業実施計画の評価

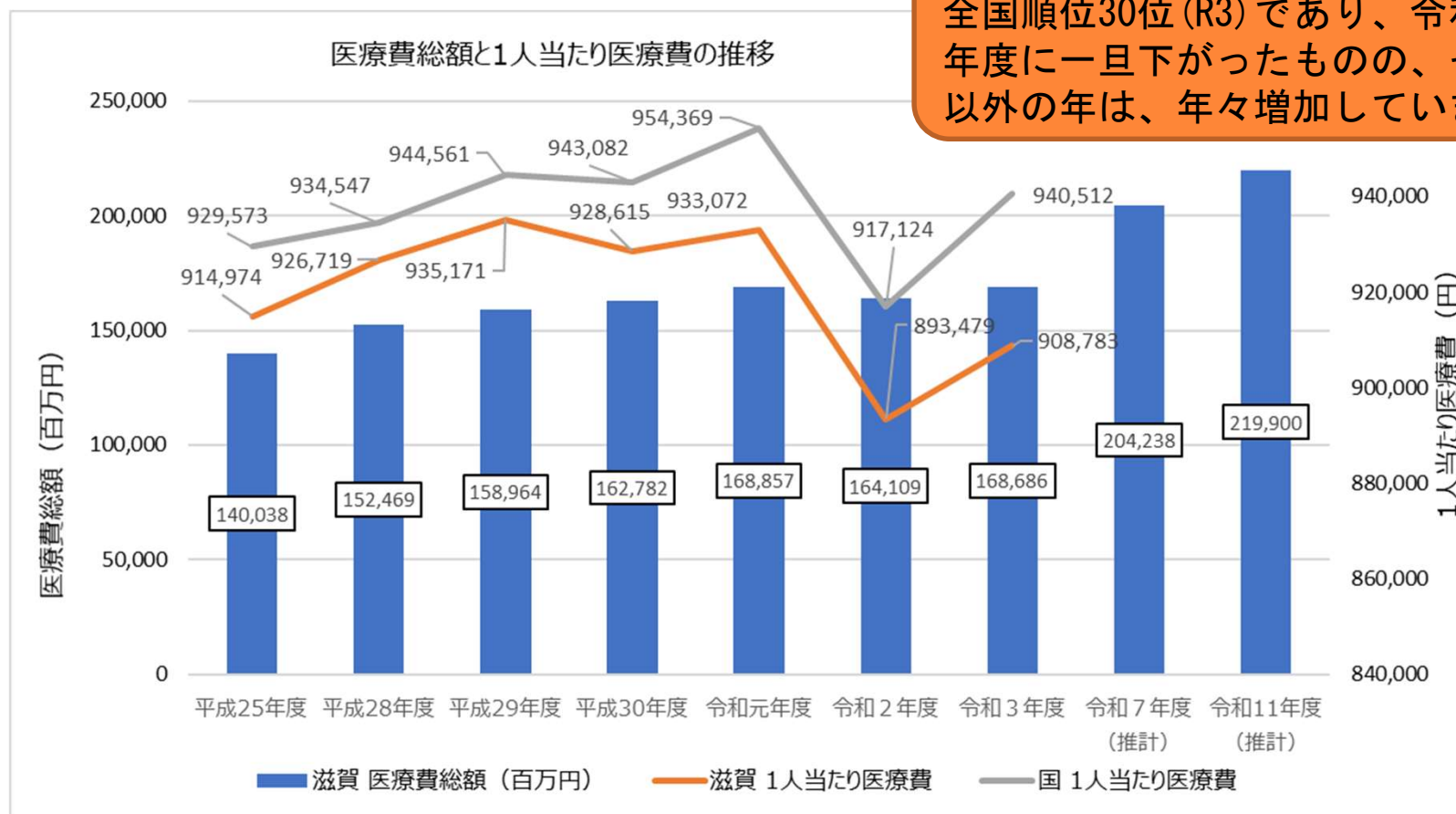
事業名称	計画時に設定した目標 (目標値)	目標の達成 状況(評価)	目標の達成状況 (R4年度実績値)
①健康診査	健康診査受診率(55.7%)	C	受診率30.3%
②健康診査受診勧奨	勧奨対象者の健診受診率 (30.0%)	A	勧奨対象者受診率 26.6%
③健診受診後訪問指導	実施市町数(全19市町)	達成済	実施19市町
	指導実施者の医療機関受診 率(70.0%)	D	医療機関受診率 22.8%
④糖尿病性腎症重症化予防事業	取り組みを行う市町数 (全19市町)	D	実施6市
⑤歯科健康診査	歯科健康診査受診率 (30.0%)	A	受診率24.7%
⑥歯科健康診査受診勧奨	勧奨対象者受診率(25.0%)	B	勧奨対象者受診率 15.2%
⑦フレイル予防事業	取り組みを行う市町数 (全19市町)	A	実施17市町
⑧重複・頻回受診者訪問指導	実施市町数(全19市町)	達成済	実施19市町
⑨ジェネリック医薬品差額通知	使用率(80.0%)	達成済	使用率81.6% (R5年3月診療分)
⑩健康相談・健康教育	実施市町数(全19市町)	達成済	実施19市町
⑪事業実施市町へのデータ提供	データ提供・分析市町数 (全19市町)	達成済	実施19市町
⑫地域特性を生かした健康づくり事業への支援	実施市町数(全19市町)	A	実施18市町
⑬高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	実施市町数(全19市町)	B	実施15市町

第2 健康・医療情報等の分析・分析結果に基づく健康課題の抽出

後期高齢者の健康・医療情報の分析

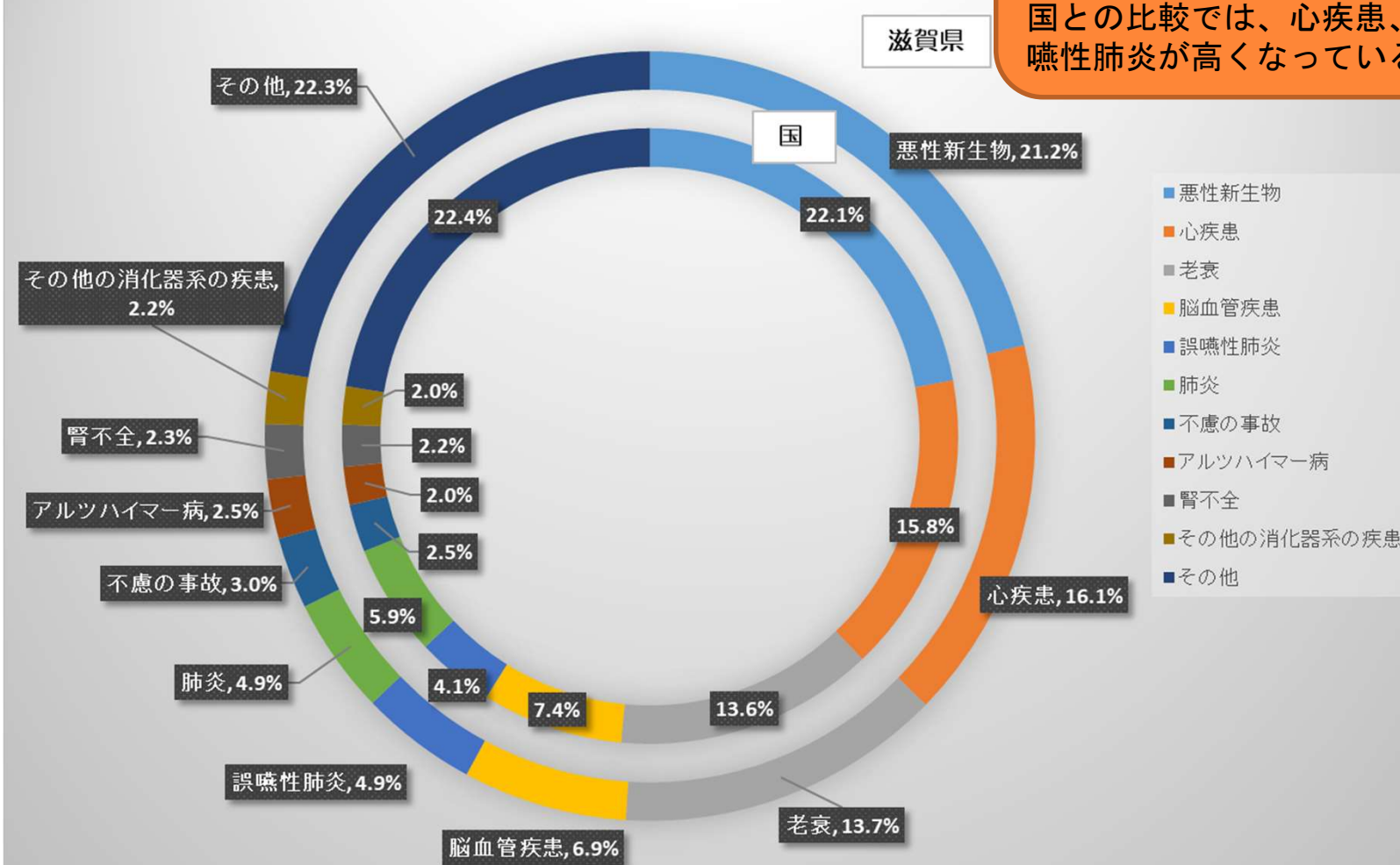
○将来推計に伴う医療費見込み

1人当たり年間医療費：908,783円、全国順位30位(R3)であり、令和2年度に一旦下がったものの、それ以外の年は、年々増加しています。



○死因別死亡割合

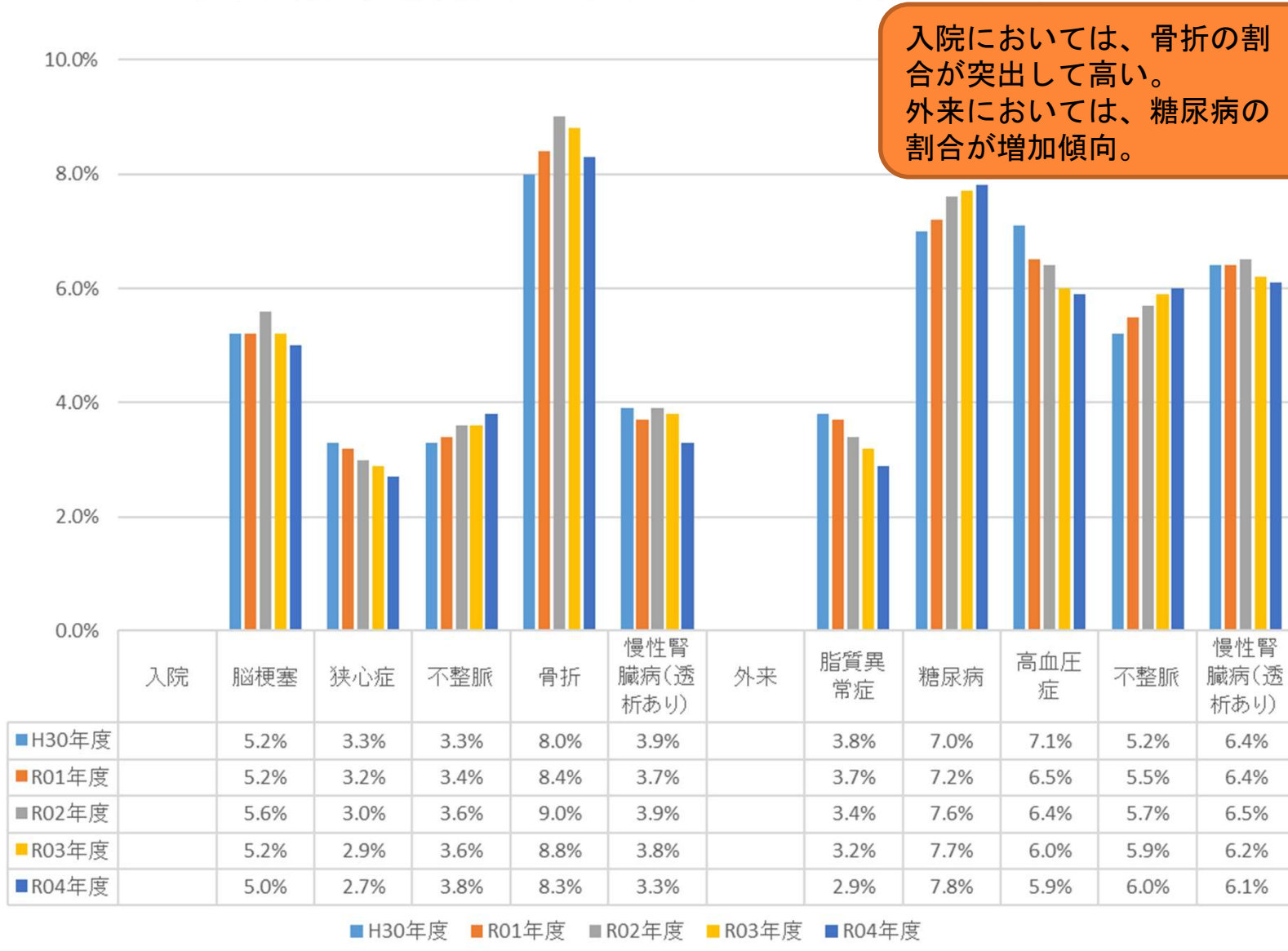
75歳以上の死因別死亡割合(2021年)



近年、上位の順位はほとんど変化がないが、その内、誤嚥性肺炎は占める割合が増加傾向にある。
 国との比較では、心疾患、誤嚥性肺炎が高くなっている。

○後期高齢者等の疾病別医療費

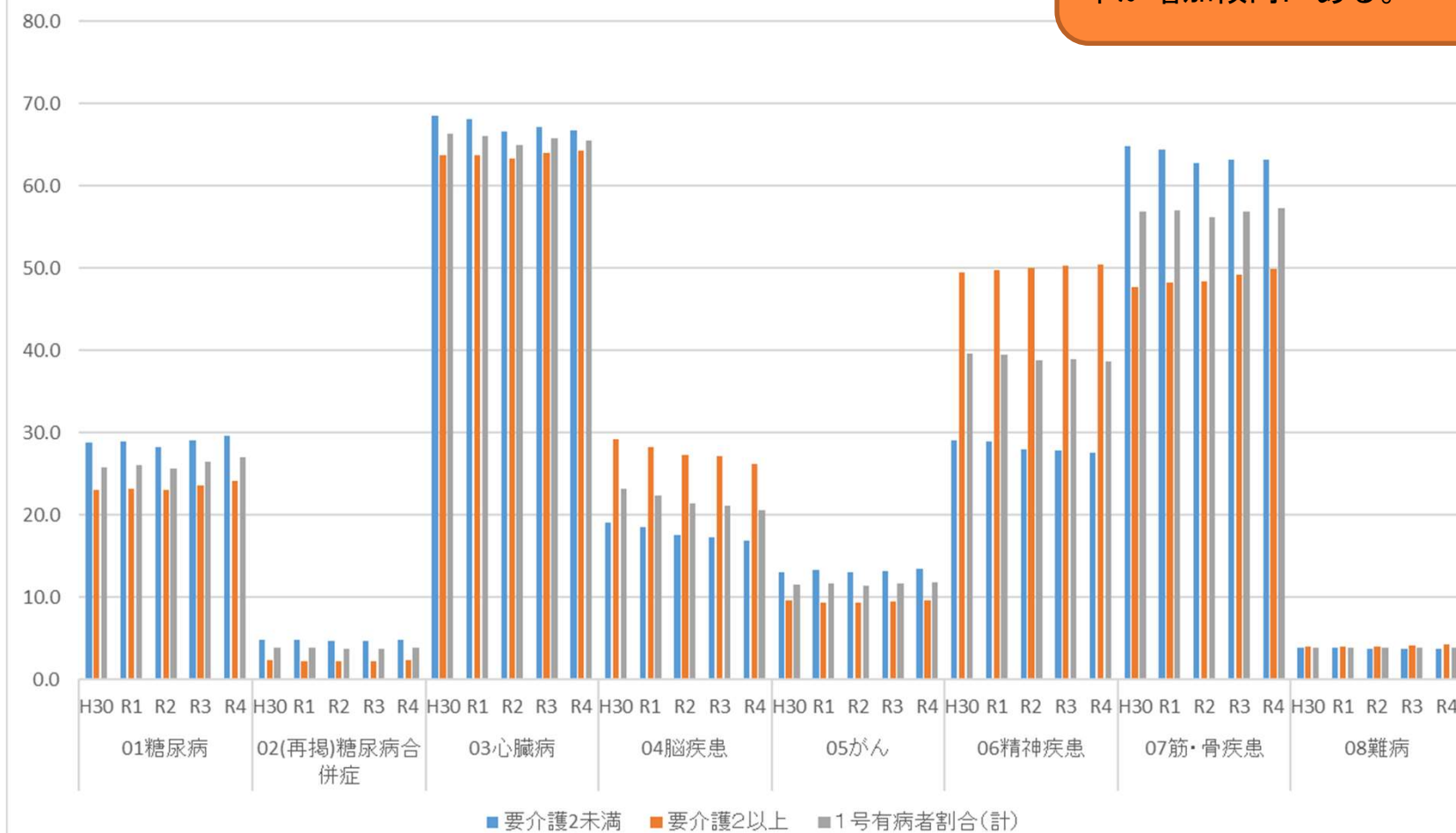
疾病分類別医療費割合(入院、外来別) ※滋賀県 上位5位



○要介護認定者の有病状況

要介護2以上で、糖尿病、心臓病、筋骨格系疾患の有病率が増加傾向にある。

要介護認定者有病率(疾病別・経年比較)



滋賀県の後期高齢者等の健康・医療等の現状

	現状	アセスメント
死因（75歳以上）	令和3年 1位悪性新生物（21.2%）、2位心疾患（16.1%）、3位老衰、4位脳血管疾患、5位誤嚥性肺炎 誤嚥性肺炎の占める割合が増加傾向にあり、国との比較では、心疾患（国15.8%）、誤嚥性肺炎（国4.1%）が高くなっている。	誤嚥性肺炎の割合が増加傾向にあることから、口腔機能にリスクのある高齢者が増加している可能性があると考えられる。
健診結果の状況（健康状況）	○やせリスク保有者の割合は令和4年度8.2%で国（8.6%）と比べ、低くなっているが、令和2年度からは0.6%程度上昇している。 ○血圧リスク、やせリスク保有者の割合において、最も高い市町と最も低い市町の差が大きくなっている。	・やせリスク保有者割合は国よりも割合は低いものの、ここ数年上昇傾向にある。 ・血圧リスクおよびやせリスク保有者の割合が高い市町に対し、高血圧未治療者対策や低栄養対策を推進する必要があると考えられる。
質問票調査結果の状況（生活習慣）	○運動・転倒リスクなしの割合が令和4年度29.7%と、他の項目と比べ、著しく低くなっている。 ○運動・転倒リスク、認知機能リスク、喫煙リスクにおいて、最も高い市町と最も低い市町の差が大きく、運動・転倒リスクでは5.8%の差があった。	・運動・転倒リスクなしの割合は国の割合よりは高いものの、約7割の方がリスクがあると感じている状況である。また、市町間でも大きな差があることから、リスク無し割合が低い市町を中心に対策が必要と考えられる。
医療費	○1人当たり医療費点数は外来（3,288点）は前年度より低下した一方、入院（3,718点）は上昇傾向。入院は、前年度と比較し105.4%の伸び率で、国の伸び率（102.5%）と比較して大きくなっている。	・一人当たり医療点数で、入院が上昇傾向にあり、国を上回る伸び率であることから、入院まで進行しないように、生活習慣病の重症化予防やフレイル予防等の取り組みを推進する必要がある。
疾病別医療費割合（入院）（上位5疾病）	1位骨折（8.3%）、2位脳梗塞（5.0%）、3位不整脈（3.8%）、4位慢性腎臓病（透析あり）、5位狭心症	・骨折がここ数年続けて1位であり、レセプト1件当たり点数でも、国と比較して高くなっている。 ・脳梗塞は若干割合が低下してはいるものの、引き続き、骨折に次ぐ2位と言う状況に変わりはない。
レセプト1件当たり点数（入院）	脳梗塞（県：74,567点、国：69,980点）、骨折（県：81,069点、国：76,659点）、狭心症（県：76,854点、国：71,626点）等が国と比較して高くなっている	
疾病別医療費（外来）（上位5疾病）	1位糖尿病（7.8%）、2位慢性腎臓病（透析あり）（6.1%）、3位不整脈（6.0%）、4位高血圧症、5位脂質異常症	糖尿病の占める割合が増加傾向にあり、一人当たり疾病別医療費（生活習慣病・外来）においても、糖尿病が国と比較して高くなっている。
人工透析患者数	新規人工透析患者数は患者千人当たりで減少しているものの、年間300人余りで推移している。また糖尿病性腎症患者数（患者千人当たり26.4人）が上昇傾向にある。	糖尿病性腎症重症化のリスクへの対応が必要である。
75歳以上の要介護認定者の有病割合等	R3 1位心臓病（68.1%）、2位筋・骨格（58.8%）、3位精神疾患（40.2%） ○要介護認定の有無による生活習慣病の有病率の違いを見ると、アルツハイマー病（差27.7%）、脳血管疾患（差16.9%）、骨折（差16.2%）の差が大きくなっている。	精神疾患の有病割合が増加傾向にあり、要介護認定の原因疾患としても認知症は主要な原因であることから、要介護の重度化の要因として、認知症があると考えられる。
要介護度別有病率割合	R3 要介護2未満 1位心臓病（66.7%）、2位筋骨格系疾患（63.1%）、3位糖尿病（29.7%） 要介護2以上 1位心臓病（64.2%）、2位精神疾患（50.4%）、3位筋骨格系疾患（49.9%）	・要介護2以上では、糖尿病、心臓病、筋骨格系疾患の有病率の割合が増加傾向にあり、要介護の重度化の要因として、生活習慣病等の疾患の重症化や、骨折等が考えられる。

第3 計画全体の目的・目標

課題解決に係る取組の方向性

計画全体の目的・目標

広域連合がアプローチする課題		優先する課題	課題解決に係る取組の方向性
1	<p>★平均寿命と健康寿命（平均自立期間）の差（不健康期間）が大きい市町の改善 【健康寿命（平均自立期間）】 平均寿命と健康寿命（平均自立期間）の差は、男女ともに僅かながら、国よりも大きくなっていることから、健康寿命（平均自立期間）延伸のための取組が必要である。</p> <p>↓</p> <p>・平均寿命と健康寿命（平均自立期間）の差（不健康期間）が大きい市町の改善</p>		<ul style="list-style-type: none"> 構成市町ごとの健康寿命（平均自立期間）のモニタリングと結果の共有 一体的実施の進捗管理と実施継続に向けた支援
2	<p>★健康状態を客観的指標により把握している被保険者の増加 【健診受診率】 健康診査の受診率の市町間で差がある状況。また、前期高齢者の特定健診受診率が高い市町ほど、後期健診の受診率が高い傾向にあることから、国保と連携した受診率向上に係る取組の推進が必要。</p> <p>↓</p> <p>・県内における健診受診率が低い市町の改善 ・県全体における、生活習慣病受診者への「かかりつけ医」での健診受診勧奨。 ・健康状態不明者の減少</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> 健診受診率の向上 健診受診率の市町格差の改善 健康状態不明者対策
3	<p>★健康状態に課題のある高齢者の減少 ・健診受診者で医療未受診者の内、受診勧奨判定値以上の方が7割弱もあり、リスクがあるにもかかわらず放置している可能性がある。 【低栄養】 ・やせリスク保有者割合は上昇傾向にあり、また、市町間での差も大きい。 【糖尿病性腎症の重症化のリスク】 ・疾病別医療費割合（外来）において、慢性腎臓病（透析あり）の割合が引き続き上位を占める状況にある。 ・患者千人当たり糖尿病性腎症患者数が、ここ数年上昇傾向にある。 ・糖尿病性腎症を原疾患とするものを含めた新規人工透析患者数も年間300人余りで推移している。 【虚血性心疾患および脳血管疾患の重症化のリスク】 ・狭心症にかかる入院のレセプト1件当たり点数が国より高く、千人当たりレセプト件数でも国の約1.6倍となっており、重症化して医療にかかっている状況にある。 ・レセプト1件当たり点数（入院）で脳梗塞が国より高い一方、高血圧症、脂質異常症の外来1件当たり点数が国より低いことから、必要な人が医療に繋がっておらず、重症化している可能性がある。</p> <p>↓</p> <p>・やせリスク保有者割合が高い市町の改善 ・適切な医療・介護サービス等への接続（未治療者・治療中断者の減少）</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> やせリスク保有者割合が高い市町を中心に、低栄養防止予防のための取組の推進 市町における糖尿病性腎症及び生活習慣病重症化予防の取組の推進
4	<p>★心身機能が低下した高齢者の減少 被保険者がフレイルリスクを認識し、予防のための行動変容をとれることが必要。 【骨折・転倒のリスク】【口腔】 ・健診の質問票等の結果で、運動・転倒リスクなし及び口腔機能リスクなしの割合が特に低い。 ・入院や介護認定の要因においても、筋骨格系疾患が高い割合を占めている。 ・死因別死亡割合で誤嚥性肺炎の割合が増加傾向で、国と比較しても高い割合である。</p> <p>↓</p> <p>・運動・転倒リスクなしの割合が低い市町の改善 ・口腔機能リスクなしの割合が低い市町の改善 ・歯科健康診査の受診率向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> 運動・転倒リスクや口腔機能の低下の傾向が特にみられる市町を中心に、転倒・骨折予防、口腔機能改善のための取組の推進

計画全体の目的・評価指標及び目標値

○ 計画全体の目的

【この計画によって目指す姿】

「**住み慣れた地域で自立した生活が送れる高齢者の増加**」

○ 評価指標・目標値(R11年度)

①健康診査 ・健康診査受診率 **30.0%**

・質問票を活用したハイリスク事業を行う市町数 **12市町**

②一体的実施の推進(アウトプット) ・ハイリスク事業の実施市町数の増加

事業名	現状値 (R4年度)	目標値 (R11年度)	事業名	現状値 (R4年度)	目標値 (R11年度)
低栄養予防	4市町	6市町	重症化予防(糖尿病性腎症)	6市町	全19市町
口腔機能低下予防	5市町	11市町	重症化予防(その他)	12市町	全19市町
服薬適正化	1市	3市町	健康状態不明者対策	12市町	全19市町

③一体的実施の推進(アウトカム) ・ハイリスク者割合の減少

⇒健診対象者見直し後の**令和6年度**をベースに、**そこからの減少を目標とします。**

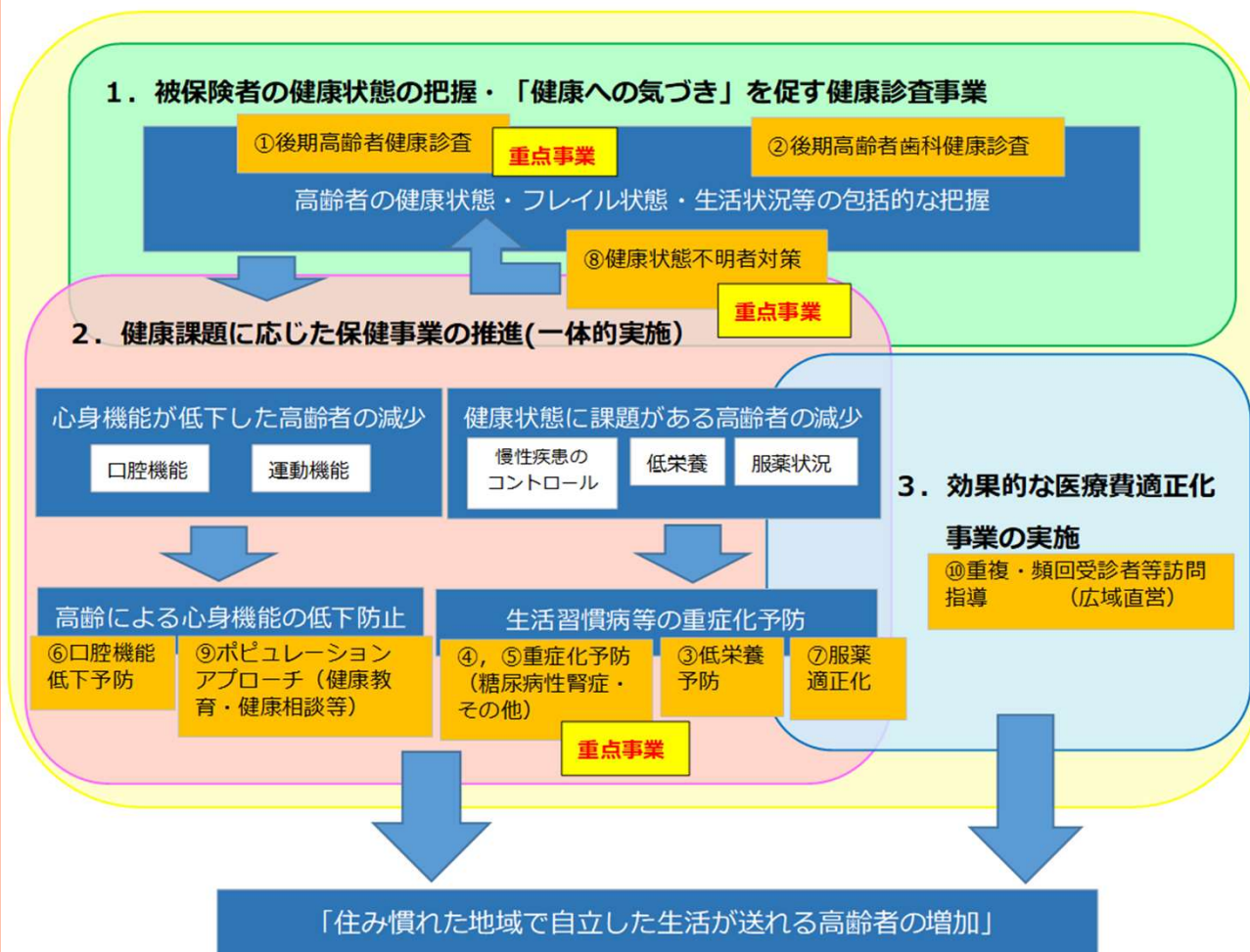
④計画全体の目標(アウトカム)

・**平均寿命の伸び率以上の健康寿命(平均自立期間)の延伸**

第4 保健事業の内容

保健事業体系図

～「住み慣れた地域で自立した生活が送れる高齢者の増加」を目指して～



- 課題解決に資する事業設計を念頭において、第2次計画時の事業を再構築した結果、3つのカテゴリーで10の個別事業を設定。
- 10の事業の内、第3次期間に、特に優先して実施する必要があると考える4つの事業を重点事業として設定。
- 市町にも、効率的な事業実施いただけるよう、重点事業を示していく。

1. 被保険者の健康状態の把握・「健康への気づき」を促す健康診査事業

(1) 後期高齢者健康診査

糖尿病等の生活習慣病やその他疾病を早期に発見するとともに、被保険者の健康の保持増進を図ることを目的として実施します。

健診受診率 令和11年度目標数値 30%

○ 健診受診後訪問指導

健診受診者のうち、健診の結果、医療機関の受診が必要にもかかわらず医療機関を受診していない被保険者に対し、医療専門職が個別訪問等による医療機関への受診勧奨(国保連合会へ委託)を行い、被保険者の疾病の早期発見、早期治療及び疾病の重症化予防を図ります。

指導実施者の医療機関受診率 令和11年度目標数値70%

(2) 後期高齢者歯科健康診査

口腔機能の低下による誤嚥性肺炎等、高齢者に多く発生する疾病予防のきっかけ作りとするとともに、口腔機能の状態を把握することにより口腔機能の維持・改善を図ることでオーラルフレイルを予防し、被保険者の健康の保持増進、健康意識の向上を図ることを目的に実施します。

歯科健診受診率 令和11年度目標数値30%

2. 健康課題に応じた保健事業の推進(一体的実施)

(1) ハイリスクアプローチ

後期高齢者の特性を踏まえ、疾病の重症化予防・フレイル予防に着目した一体的実施の取組を推進することにより、在宅で自立した生活を送ることができる高齢者の増加を目的として実施します。

○ 事業の概要

市町は、低栄養予防、重症化予防(糖尿病性腎症、その他)、口腔機能低下予防、服薬適正化、健康状態不明者対策、に取り組みます。

【優先事業】

抽出した課題・目標に基づき、次の事業を優先事業として設定します。
重症化予防(糖尿病性腎症)、重症化予防(その他)、健康状態不明者対策

(2) ポピュレーションアプローチ

通いの場等を活用して、医療専門職が関与することで、高齢者に健康状態に関心を持ってもらい、またフレイル予防の周知を図ることを目的に実施します。

○ 事業の概要

市町は、健康教育・健康相談、フレイル予防等の普及啓発、健康状態の把握等に取り組みます。



広域連合による市町支援

広域連合は市町が円滑に事業実施できるよう、関係機関と連携し、(1)一体的実施事業従事者への支援、(2)一体的実施事業への支援を実施します。

(1) 一体的実施事業従事者への支援

- ・必要な知識、技術等の質を向上するための取組(「高齢者保健事業基礎力向上研修会」、「高齢者の保健事業セミナー」等の開催)
- ・県内市町の情報共有(高齢者健康づくり事業推進フォーラム等の開催)
- ・(新)市町間の比較を可能にするため、各市町の実施状況、評価指標の達成状況をとりまとめ情報共有



(2) 一体的実施事業への支援

- ・第三者からの支援・評価を受ける機会の提供(広域連合の保健事業アドバイザー、支援・評価委員会)
- ・広域連合が有する健康・医療情報の活用(データの作成・提供、(新)医療費分析・健康課題分析結果の提供等)
- ・(新)通いの場等での質問票を活用した事業の推進・支援

3. 効果的な医療費適正化事業の実施

(1) 重複・頻回受診者訪問指導

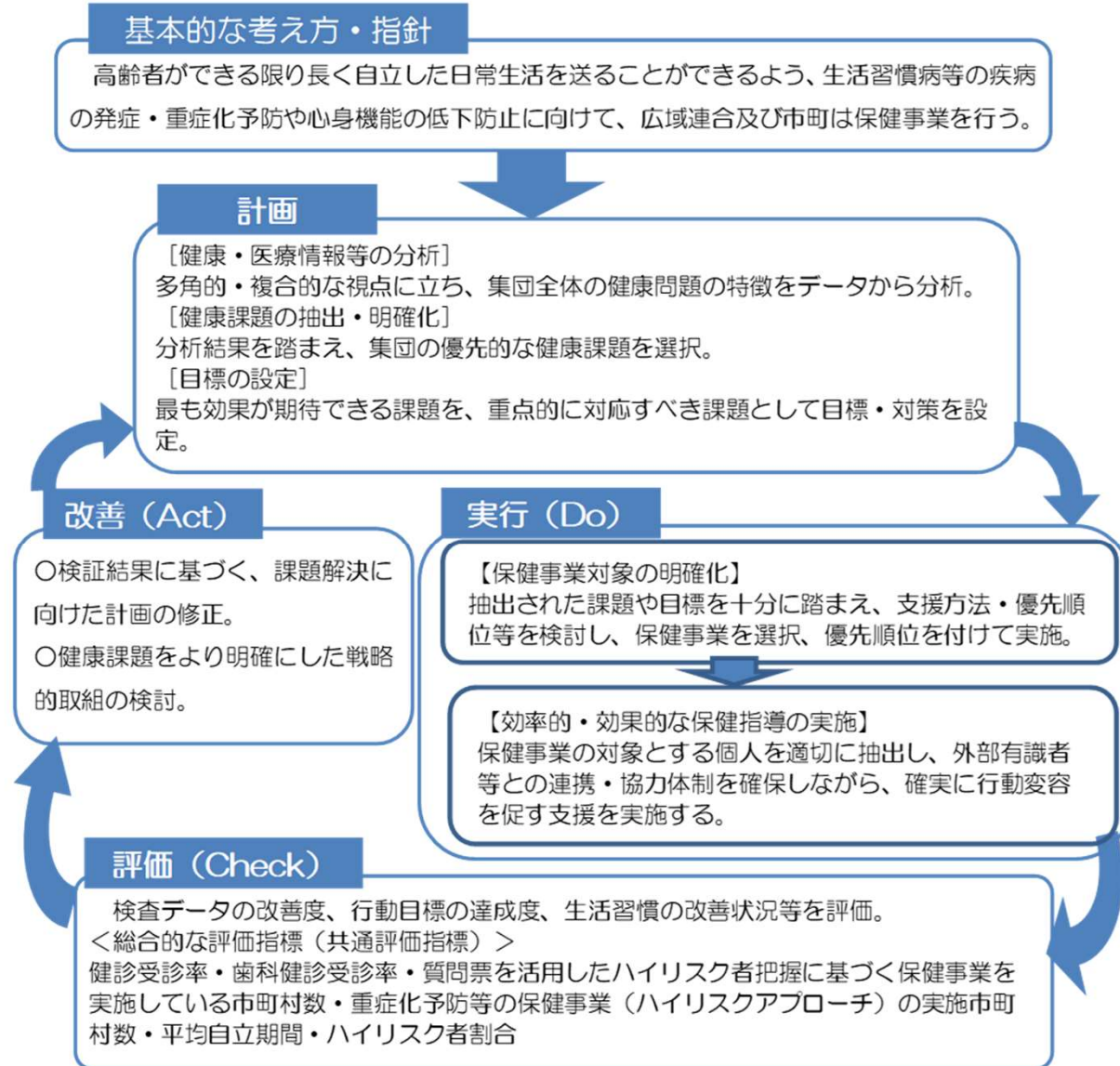
重複頻回受診者の健康保持と疾病管理を促すため、個別訪問して指導・健康相談を行います。医療専門職が医療機関への重複・頻回受診を行っている被保険者に対して、適正受診を促す訪問指導(国保連合会へ委託)を実施します。

指導実施者の指導後の改善割合 令和11年度 75%

多剤投薬者への指導についても、一体的実施での事業実施市町が少ないことから、国保連合会と協議のうえ、実施に向けて検討し、実施していきます。

5. その他

計画の評価・見直し



- PDCAサイクルに沿って効果的かつ効率的に実施
- 評価指標に基づき毎年度評価、必要に応じて事業内容等の見直し
- 滋賀県長寿医療運営懇話会へ定期的な報告
- 市町との調整・連携